

Vol.133

日本の高配当株式へ投資を行なうETFに注目

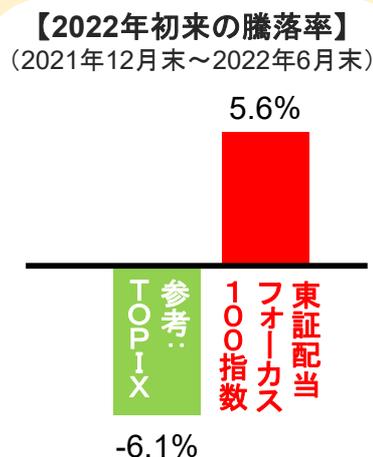
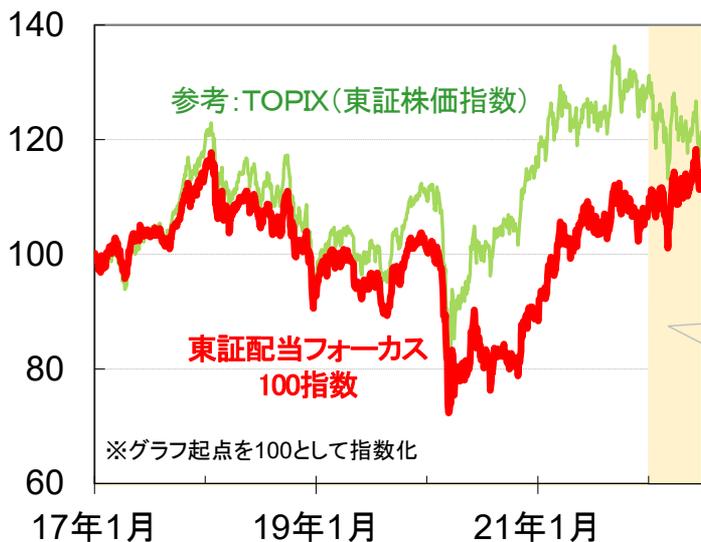
2022年前半の金融市場は、世界的なインフレ高進や米欧の金融政策の正常化に向けた動向などを背景に、金利上昇時には割高感が意識されやすいグロース株を中心に値動きが激しい状況となり、日本の株式市場においても、上値の重い状況となりました。しかし、日銀の金融緩和政策が継続していることや欧米に比べ低インフレであることなどを背景に、日本株式には底堅さもみられました。

このような環境下、グロース株から高配当株式などバリュー株への資金シフトもみられ、2022年の日本の高配当株式は、これまで概ね堅調な推移となりました。高配当株式は、相対的に高い配当利回りや安定した配当収入の確保に加え、中長期的な値上がりを期待できる資産です。また、配当利回りの高さは株価の下落を緩和させる効果が期待されるなど、一般に下値抵抗があるといわれます。これまでも、配当利回りの観点において、投資妙味が高い資産として注目されてきました。

そして、東証の市場構造改革などを機に、以前に比べて企業側のコーポレート・ガバナンスに対する意識が高まる中、増配や自社株買いなどの株主還元が活発化しているようです。また、堅調な企業業績に伴ない、配当金を増やす企業もみられました。報道によれば、2022年3月期の日本企業の配当金の支払い総額は、約12.3兆円と過去最高となっており、企業の意識改革や好業績が高配当株式のパフォーマンスの下支えになっていると考えられます。

日本の高配当株式への投資には、東証配当フォーカス100指数への連動をめざす「ETF(上場投資信託)」で投資をご検討されてはいかがでしょうか。同指数は、予想配当利回りや時価総額に着目して選定された100銘柄(株式90銘柄、REIT10銘柄)で構成されており、高い配当利回りに注目するだけでなく、流動性なども考慮されています。

【東証配当フォーカス100指数の推移】(2017年1月初～2022年6月30日)



(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

 東証配当フォーカス100指数の動きへの連動をめざすETF銘柄:

「上場インデックスファンド日本高配当(東証配当フォーカス100)」

| ETFの愛称〔銘柄コード〕 | 対象指数 | 売買単価 (2022年7月6日終値) | 上場市場 | 売買単位 | 最低投資金額 (概算)* |
|---------------|----------------|-----------------------|---------|------|-----------------|
| 上場高配当〔1698〕 | 東証配当フォーカス100指数 | 1,974円 | 東京証券取引所 | 10口 | 19,740円 |

*最低投資金額(概算)は、2022年7月6日終値×最低売買単位。手数料などの費用は含みません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ご留意事項①

■リスク情報

投資信託は、投資元金が保証されているものではなく、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、市場取引価格または基準価額は変動します。したがって、投資元金を割り込むことがあります。投資信託の運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。金融商品取引所に上場され公に取引されますが、市場価格は、基準価額と変動要因が異なるため、値動きが一致しない場合があります。

■手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

＜取得・換金時にご負担いただく費用＞

購入時手数料 販売会社が独自に定める手数料とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。なお、当該手数料には消費税等相当額がかかります。

換金手数料 販売会社は、受益者が解約請求、交換を行なうとき、および受益権の買取りを行なうときは、当該受益者から、販売会社が定める手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を徴収することができるものとします。
※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

信託財産留保額 上限0.6%

＜取引所における売買時にご負担いただく費用＞

売買手数料 取扱会社が独自に定める手数料とします。詳しくは、取扱会社にお問い合わせください。

＜信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用＞

信託報酬(年率) 上限0.77825%(税抜0.7075%)

その他費用 組入有価証券の売買委託手数料、監査費用、立替金の利息、受益権の上場に係る費用、標章の使用料および貸付有価証券関連報酬(有価証券の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品貸料に0.55(税抜0.5)以内(有価証券届出書提出日現在、税抜0.5)を乗じて得た額)など
※その他費用については、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

《ご注意》

- 手数料等につきましては、日興アセットマネジメントが運用するETFのうち、徴収するそれぞれの手数料等における最高の料率を記載しております。(当資料作成日現在)
- 上記のリスク情報や手数料等の概要は、一般的な投資信託を想定しており、投資信託毎に異なります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)などをご覧ください。

(次ページへ続きます)

ご留意事項②

(前ページより続きます)

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様にご帰属します。当該ファンドをお申込みの際には、契約締結前交付書面などを十分にお読みください。

指数の著作権などについて

「東証配当フォーカス100指数」

- 東証配当フォーカス100指数の指数値および東証配当フォーカス100指数に係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証配当フォーカス100指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証配当フォーカス100指数に係る標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- JPXは、東証配当フォーカス100指数の指数値の算出もしくは公表の方法の変更、東証配当フォーカス100指数の指数値の算出もしくは公表の停止または東証配当フォーカス100指数に係る標章もしくは商標の変更もしくは使用の停止を行なうことができます。
- JPXは、東証配当フォーカス100指数の指数値および東証配当フォーカス100指数に係る標章または商標の使用に関して得られる結果ならびに特定日の東証配当フォーカス100指数の指数値について、何ら保証、言及をするものではありません。
- JPXは、東証配当フォーカス100指数の指数値およびそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。また、JPXは、東証配当フォーカス100指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
- 当ファンドは、JPXにより提供、保証または販売されるものではありません。
- JPXは、当ファンドの購入者または公衆に対し、当ファンドの説明または投資のアドバイスをする義務を負いません。
- JPXは、日興アセットマネジメント株式会社または当ファンドの購入者のニーズを東証配当フォーカス100指数の指数値を算出する銘柄構成および計算に考慮するものではありません。
- 以上の項目に限らず、JPXは当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても責任を有しません。

設定・運用は

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会